

障がいのある子の高校集会 2016

障害者差別解消法が施行され、3ヵ月が過ぎた。法はきちんと理解され、順守されているのだろうか。気になっていた頃、表題の集会を知り参加した。テーマは「みんなと一緒に公立高校 入学と卒業」である。集会テーマにふさわしい報告が2本続いた。

まずは久野藍里さんと母の美菜子さんによる「夢を持つことで鍛えられた強さ 普通の経験から伸びていく力」である。2年越しの念願だった名古屋市立中央高校への入学。そして楽しい高校生活。写真は主催者の愛知「障害児・者」の高校進学を実現する会の川本道代さん。左端が藍里さん。



「お母さん、今まで生きてきて私は今の高校生活が一番楽しいよ！何より先生方が私のことを否定しないことが嬉しいの！友達も増えて楽しい。友達の存在ってやっぱり大事だよ。お母さん！本当の友達って良いものだなー。体育の授業では号令係をやらせてもらっているよ。---先生は私にできることを探して授業に参加させてくれるし、ほんとうに学校超-楽しい。」藍里が生き生きと私に色々な学校生活の出来事を話してくれる毎日です。私は今、高校に通う元気ではつらつとした藍里の17歳の姿を見られて本当に嬉しく思っています。---人は人から認められることによって自己肯定感を持つことができます。

続いて、大津陽さんと母恭子さんの「陽の高校生活、終わりよければすべてよし!？」思い返せば、3年で卒業できるとは、入学時には簡単には考えられなかった。点数をとることが難しい陽。履修は大きな壁だった。1年生の時には、進級の展望が見られず、陽は「20年通います」と言ったりした。テスト前の事前勉強会や大量の課題などをこなして、追試も減っていった。3年生ではなくなったと思う。



なにより「3ヵ年皆勤賞」が授与された。感動的な卒業式の後、学年主任から保護者に向けて話があった。その中で「ご存じだと思いますが、この学年にはハンディを持った生徒さんもいました。---この学年は明るく優しくみんなで過ごしてきたところが特徴だと思います。」

藍里さんと陽さんの明るい表情がとても印象的だった。高校の先生、友だちの大切さを実感できた。今後は大学も視野に入れて、学ぶ場や機会を広げていければと思う。

(2016年7月1日)